THE LADIES' JOURNAL OF EDUCATION.

女學雜誌

驛遞局認可　明治十九年五月一日　毎土曜日發兌　第貳拾號

此の繪の説明ハ本紙中に在り

The Engraving illustrated in another page.

東京京橋區南鍋町貳丁目壹拾番地　發行所　績文舍

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學叢誌第二十號目次

●官報●女學叢談●兒の疑問を聞て母の前途を心配す●中外新報拾三件●庭訓の鑑●東照宮御消息の續●英語の栞〔附羅馬字話なし〕●泰西箴誌の直譯●內外列女傳●ブルガリヤ國の勇女〔表書傳〕烈女岡谷きわ子〔前號の續〕●木戶翠香尼●首のぶの小傳●菲芳詞苑●閨秀新品●探梅の記●數學の答●女紅●香道●裁縫二ッ身裁方●頭髮を生す法●ツールン氏西洋料理法の飜譯〔前號の續き〕●稗史小說●西江月話〔前號續き〕●御伽草●借銀を返へしたる夢●留飯の意なし●字謎●考へ物●机の塵●金言摘錄●十字●つれ〳〵草講義

明治十九年五月一日

明治十九年 女學叢誌每土曜日發兌表

月					
一月	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
二月	六日	十三日	二十日	廿七日	
三月	六日	十三日	二十日	廿七日	
四月	三日	十日	十七日	廿四日	
五月	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日
六月	五日	十二日	十九日	廿六日	
七月	三日	十日	十七日	廿四日	卅一日
八月	七日	十四日	廿一日	廿八日	
九月	四日	十一日	十八日	廿五日	
十月	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
十一月	六日	十三日	二十日	廿七日	
十二月	四日	十一日	十八日	廿五日	

廣告料定則

一行二十七字詰	壹回分	二回分	三回分	四回分
自一行至十行	八錢	七錢	六錢五厘	五錢
自十一行至二十行	七錢	六錢五厘	六錢	四錢五厘
自二十一行至三十行	六錢	五錢五厘	五錢	四錢
自三十一行至五十行	五錢五厘	五錢	四錢五厘	三錢五厘

本誌代價表

壹冊	正價金四錢	此郵稅壹錢
拾冊	同金三拾八錢	同拾錢
二拾冊	同金七拾五錢	同二拾錢
三拾冊	同金壹圓拾錢	同三拾錢
四拾冊	同金壹圓四拾錢	同四拾錢
五拾冊	同金壹圓七拾錢	同五拾錢

但シ東京十五區內郵稅不申請

本舍ハ御注文有之と雖とも前金御送附無之間ハ叢誌配達不仕事に內規相定候に付御注文の節ハ必ず代價郵稅共郵便爲替又ハ通運便にて御送附わらんとを希ふ〇郵券代用ハ御斷り申上候č一郵便切手を以て代價御送附の節ハ壹錢切手にて一割增を乞郵便爲替ハ芝區芝口郵便局へ御振込ミ其爲替券を本舍へ御送附可被下候

但し東京十五區內ハ御斷り無之間ハ引續き配達仕候

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

◎官報

本年四月九日

○朕中學校令を裁可し茲に之を公布せしむ

御名　御璽

明治十九年四月九日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文
文部大臣　森有禮

勅令第十五號

中學校令

○第一條　中學校ハ實業ニ就んと欲し又ハ高等の學校に入んと欲する者に須要なる敎育を爲す所とそ○第二條　中學校を分ちて高等尋常の二等とす高等中學校ハ文部大臣の管理に屬す○第三條　高等中學校ハ法科醫科工科文科理科農業商業等の分科を設くるとを得○第四條　高等中學校ハ全國（北海道沖繩縣を除く）を五區に分畫し每區ニ一ケ所を設置す其區域ハ文部大臣の定むる所に依る○第五條　高等中學校の經費ハ國庫より之を支辨し又ハ國庫と該學校設置區域内ニ在る府縣の地方稅とに依り之を支辨するとあるへし但此場合ニ於てハ其管理及ひ經費分擔の方法等ハ別ニ之を定むへし○第六條　尋常中學校ハ各府縣に於て便宜之を設置するとを得但其地方稅の支辨又ハ補助に係るものハ各府縣一ケ所に限るへし○第七條　中學校の學科及ひ其程度ハ文部大臣の定むる所に依る○第八條　中學校の敎科書ハ文部大臣の撿定したるものに限るべし○第九條　尋常中學校ハ區町村費を以て設置する事を得ず

◎女學叢譚

○兒の疑問を聞て母の前途を心配す

兒の敎育ハ母の手より授づけさるべからずとハ西人の言ふ所ろ又父の子を敎ふるハ母に陪そ而れども子の母に化するや父に十す則ち唯是れ巾幗焉んぞ其れ之を忽かせにせんやとハ明人黃嘉育が劉向列女傳に敍する所の一語なり本邦の論者にありても亦兒の敎育ハ母の手にあるを論ずるハ世人の既ニ知る所ろ然らハ則ち兒を敎ふるハ國に依りて其宜しきを異にするハあるべけれども其母の手にあるの一端に至りてハ一國一人の論にあらずして世界の公論と云ふも誣言ニあらざるべし夫れ然り然からハ則ハち母の子に於ける敎育の任容易の事にあらずして學術十分なる者ニ非ざれバ能ハざるハ論なきなり如

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

何せん本邦の今日の勢ひ子の學ぶ所ろ母に比すれば大に進歩するを以て母子の間に於て間々不都合を生ずるものあり今親く目擊する所を擧け併て卑說を陳せんと欲す

我輩頃日或人の家を訪ひしに會々其の女兒學校より歸り來り我輩に對して慇に禮を述ぶ其齡を問へハ曰く九歲なりと幾ばくもなくして母命じて其習ふ所を復習せしむ女兒洋算を復習せるに及び數字を忘れ之れを母に問ふ母對ふる事能ハず女再三問ふに及びて母曰く我れ知らざる也後に客の歸るを待父に問ふべしといひしに女ハ不審の色ありておつかさんハ學校で洋算ハお習ひでハなかりしかと云ふ母一言の答へもなくして遂に彼の梁惠王を學び左右を顧みて他の話しよまぎらし初め復習を命じたる時の勢ひハ無かりき之れ我輩が主人と對話の際親しく目擊する所ろにして元と女兒が一疑問に過ずして今の世にありてハ母と子の間に於てかゝる類ハ多かるべしと雖ども若し此母をして數字を教ふるを得せしめば客の歸るを待ず女ハ疑問を發するに及ばずして數字を知り得べく母ハ教育の任を遂げ得へきなり惜哉母ハ舊幕時代無敎育の世に生長したるを以て今かくの如し扨此年頃の女兒が既に聟を取るか嫁入せる年代に至りなば世ハ彌進步し學術も亦益進み其容貌こそ日本人なれ學術ハ歐州諸國の婦女に讓らざるべし而して其母ハ依然たる母よして名ハ母なりといへども學術に於てハ雲壤の懸隔を生じ前に所謂世界の公論と全たく反對の姿を現出し遂に母の權力輕きを覺ゆるに至るなるべしされど開明の敎育に成長する女兒なれハ母を凌ぐか如き不敬の擧動ハ万なかるべしといへども或ハ勢ひ又なしとも期し難し是我輩か女兒の一疑問を聞て深く感覺を起したる所以なり嗚呼今の世の母たらんもの宜しく此に注意し其未だ母を凌ぐの心萌さゞるに先ちて之れの備へなからざるべからず然られ則ちいかんして可ならん歟是他なし奮發勉勵學んで以て已れか地位を高尙ならしむるにあるのみ之れ啻に侮を禦ぐのみならず國家文明の度を進むるの一助たり努め因循すべきにあらず故人曰く壯年にして學べハ日中の日のごとく老て學べハ燈びの光のごとし燈光ハ日の光りよ若かずといへども暗夜に勝る事萬々なりと記して以て前に記せるか如き妻君に啓せる事しかり

◎中外新報

○皇后宮　皇后宮にハ去月廿二日の午后華族女學校へ成せられ休憩の上秋山四郎の敎場上等小學第一級生の讀書科堀口

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

善子の教場上等小學第三級生の讀書科佐野安の教場初等中學第一級生の地文科林董臣の教場初等中學第二級生の和文科小野梅ヶ枝の教場下等小學第一級生の算術科北條寛亮の教場下等小學第三級生の實物科等を御巡覽あらせられし由

○ワンベクテン孃　米國紐育府のワンベクテン孃には此の程大統領クリヴランド氏と結婚の約をなしたる由なるが此の孃は年まだ若く容色才能兩ながら絶佳なれば大統領の奥方とならるゝも自然其位置を得たるものと皆人噂しあへりと云ふ

○大學院學生等諸規程　（前號續）

大學院及分科大學々生々徒學術研究旅行規程

第一　大學院學生學術研究のため旅行を要するときは其教導擔當教授の具申に依り帝國大學總長之を命し給費及補助學生には定額內を以て所定の旅費日當等を支給す○第二　分科大學々生々徒學術研究のため旅行を要するときは分科大學長は總長の認可を經て之を命し定額內を以て所定の旅費日當等を支給す

○東京體育會　全會にては去廿五日体操傳習所內に於て春季大演習を行はれしが其演習の次第は左の如くなりしと

○啞鈴體操○棍棒體操（此間洋琴合奏）○器械體操○障碍物競走○フートボール○旗拾競走○二人三脚競走○袋脚競走○嚢競走○球投競走○旗取返競走○銃劍試合八馬競走○高跳競走幅跳競走○徒競走○弓術遠的卅二間○ベースボール

右に優等なりし者へは夫々賞品を授けられ又辻文部次官には生徒へ特別の賞品を與へられしと云ふ

○製絲工女の撿定　宮城縣に於ては此程製絲工女撿定手續を發布されしが其要領は撿定試驗を受んと欲する者は每年四月十日を期して出願すへし志願者は年齡十七才以上四十才以下にして滿三ヶ年以上製絲に從事したる者に限る試驗科目は撰繭繰絲溫度絲束裝算筆にして技術の巧拙により一等より八等に至る撿定証を附與し其の優等なる者へは特に教師の証狀を附與すへし右証狀の有効年限は滿二ヶ年にして滿期後尙証狀を得んと欲する者は更に試驗を受けしむ試驗場幷に期日は其都度之を告示し數町村聯合して試驗場を設け志願人二十名以上同時に試驗を受くへき場合に於ては試驗官出張すへし教師又は工女の証狀を得たる者にして品行不正其他不都合の所爲ある時は其証狀を取揚くる等の各項なりと云ふ

○女子交際會　麴町區平川町六丁目の醫師吉田京佐氏と大江孝之氏が發起にて今度全町五番地に女子交際會の事務所を設

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

けられ有志の女子ハ毎月二回相會して談話會を開き智識の交換をなさしむるの目的にて當分ハ麹町女學校を其集會所に充て會員たる者にハ月に五錢宛を出さしめて其費用に供せらるゝとの事

○決闘　文明を以て誇る歐洲にもかゝる野蠻の風習の今猶は存在するハ歎かハしき次第なれども其氣象の活潑なるハ亦以て稱するに足れり去月下旬の事なりとかや白耳義國に於て佛國のワルセール夫人と米國のシエルビー孃が両國の女醫師の優劣論より互に激する所ありてワルセール夫人ハ初め自分の手袋を取てシエルビー孃へ投付たるに孑孃ハ大に其無禮を憤り即座に決闘の事を云ひ入れウオートルローの原に於て劔を以て決闘に及ひたるが立合人ハ四人ありて双方の間に入り兎角して引分けたり此時シエルビー孃の方ハ腕にいさゝかの傷を受けられたりとなん

○婦人財嚢　上野共同競馬會社にて去る廿三四五の三日間執行されし春季競馬第二日目の婦人財嚢にハ谷元道之氏梅若と云える駿馬に乘りて勝を得られたれば財嚢金百七十圓を受くられたり右ハ池田章政氏の令孃より佐々木高行氏の令孃へ渡され仝令孃手つから谷元氏に授けられたるものにて令孃ハ授け畢や祝詞を朗讀し谷元氏も之に簡短なる荅辞を述られたり

○學習院　先頃燒失したりし神田錦町の學習院ハ八千圓余の豫算を以て已に内匠寮にて假建築に着手されしと云ふ

○草木花卉品評會　横濱山手外國人居留地公會所に於て本月廿一日より廿二日頃を以て草木花卉品評會を開かるゝ由なるが其委員長ハハンチン夫人名擧會計ラウドル夫人名擧書記ウイレル夫人にて委員ハ總て十七名あり中にハ沖縣令の夫人有島税關長の夫人等も加ハり居らるゝとぞ

○少年教會　築地の本願寺に於て昨年より少年を集め專ら修身道德の事を教え居られしが去る廿五日ハ恰も其一週年に相當せしを以て年會を開かれたるやに聞く

○西洋式の婚禮　横濱ウーメンス、ユニオン、ミツシヨン、スクールの卒業生にして當時仝校の助教なる阪部さと女ハ去月十五日の午後六時高知縣下中嶋町教會所の教頭なる山本秀照氏と結婚されしが其婚禮の式ハ日本固有の式にならハす總て西洋式を以て執行されしと云ふ

○富んだ乞食　倫敦支那エキスプレスに見えたりとてガゼツト新聞に記する處に據れハ四十年來佛京巴里市中に食を乞て徘徊する年頃七十五斗りの一老婆あり其住所ハ郭外にありて

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

現に家屋三十軒鐵道株券幷に巴里府債証書等都合五十万フランクばかりの財産を所有する者なる由にて這ハ常に金錢等惠み居たる人發見せしかば今より正業に就き一千フランクの金を貧民に施與せざれハ官に告訴するとて嚴く說諭を加へ放遣したりと云々世にハ富んだ乞食もあれバあるもの哉

◎庭訓の鑑

○東照宮御消息の續　堀田美津子

一　主人の風儀ハ側廻りに召仕候者の風俗にて知れるもの也側廻りの風俗大切に候上の事下へしれぬ樣に下の事ハよく上へ知れる樣にありたき事に候取分氣に入候ものゝ風俗心懸肝要の事に候其者一人にて一家中の風俗變じ善惡有之事に候

一　治世にも身をらくに持候事保養よもわしく何にても業のなき時ハ婦色其外色々の惡事出來候まゝ朝起てより臥までの行義を定め毎日其通よ致候事食事も常々美味斗給候てハうまきものにあらず平日の食物隨分輕き味の物宜しく候月に兩三度ハ美味給候もよきよし承り及ひ候

一　近年日課を六萬遍ヅヽ唱へ申事老人のいらぬ過役にて候遍數へらし候樣にとこなく〳〵申聞候なるほど遍數へらし候ハどらくに成べく候へども幼少より戰國に生れ多くの人を殺し候へば責てハ罪亡しよもなり候半且年若より一日も隙に暮し候事ハあき身故當世ハ靜にて隙過てこまり申候何ぞの業を致度候へ共夫もならぬ事故念佛を日々の稽古事の替りよ致し候故毎日朝起致し夜も早くハ休ミ不申怠らぬ樣に心懸候事に候夫故食事の當りもなく健にて念佛の陰と存候古へより申傳候にまづ其人の行義を知らんと思はゞ平日の起臥の刻限と食事の日々同し事か又ハ多少有之かにて行義の正不正ハしれ申候よし左樣に可有之事に候惣て氣丈過候てハあやうき事に候勇氣ハ分てなくてハならぬ第一の事に候へども強きハ強きを賴よしてまづ亡び堅き物の先へかけるたとへの通りに候へば只柔和大樣にありたき事に候召仕候ものがさつに無之樣可被申付候

右の趣能々御申聞せ唯直に父子兄弟の中禮義作法亂れぬ樣に呉々御育なさるべく候右のふみハ國ね御渡置成人の後もよく〳〵相心得候樣御敎なさるべく候かしく

二月二十五日

返す〳〵呉々も國事隨分御心付なさるべく候右之通よささへ育候へば案じ候事無之候以上

（畢）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎英語の栞 附羅馬字はなし

○泰西箴諺の直譯

㊀正直なる㊁貧(も)㊂詐譎、詭術、奸猾なる㊃富㊄於より㊅勝りて㊆有る

MAXIMS & PROVERBS.

泰西の箴諺

Honest poverty is better than fraudulent wealth.
㊀ ㊁ ㊆ ㊅ ㊄ ㊂ ㊃

〔意譯〕詭術を以て富まんよりも寧ろ正直の貧なるに如かず

KASI-NO-MI TO KABOCHA.

Nanigoto ni tsukite mo yoku fuhei wo narasu otoko ari=keri. Ie no ura ni ōinaru kasi-no-ki ari te, sono sita ni, kabo=cha-batake ari. Aru hi kono otoko hatake wo achikochi to aru=kitsutsu, hitori tsubuyakite: — "kayōni yowaku yawarakanaru tsuru ni, kakaru ōinaru kabocha wo narasi; mata kayōni ōinaru kasi-no-ki ni mame no gotoki mi wo narasimuru towa; Zōkwa no sigoto mo mata wakara=nu kana! kasi-no-ki ni kabocha wo narasi, kabocha no tsuru ni kasi-no-mi wo narasimete koso," to iikeru toki uenaru kasi-no-ki no eda yori kasi.no-mi hitotsu, futatsu atama no ue ni ochitaru nizo, otoko odorokite; — "hahā, naruhodo! kore ga kabocha nariseba, atama ga kowaretarisi mono wo."

◎内外列女傳

○ブルガリヤ國の勇女(表譜傳)

我國神功皇后ハ男粧をなして遠く三韓を征し給ひ漢土の木蘭また之れを倣して出戍りしとあり英佛の戰爭にハシヤンダーク出て明國玉珍の乱よハ韓氏の女あり其他巴女白絹の如き昔

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

より女にして戰功の世に知られたるもの少からず然れども近世に至りてハ斯ゝる婦人を聞くと絶てなかりしに此の程土耳其の一部分なるブルガリヤ國に其人あるを發見せり即ち「バルーマルバシエツト」新聞に露國「ノウスチ」新聞通信者がブルガリヤのウヰツヂンより本社に寄送したるものなりとて記載する處を見るにブルガリヤが先頃セルヴヰヤと釁を生し一大戰端を開きゝる折ウヰツヂンに住居なせる一個の小婦ハ縱令女の身にもせよ國家の存亡此の時にありいかで坐視するに忍びんやと健氣にも其土地の人民が團結せし義勇兵の列に加ハり國の南境に出軍しけるが女の粧にてハ敵味方双方の侮りを受け思ふが儘の功名手柄もなし難からんと思案しつ長けなる髮も截り捨てゝ穿も憎ハぬ戎服に鐵砲擔き劔を佩び進退かけひき勇ましく務めて男兒の態度を學びたれば隊中の人々更に女なるを知る者なく殊に當時美少年も多かりしかば這も亦其一人として數へ居れり然るに隊長なりける何某ハ早くも其の女なるを覺り窃かに詰たるに果して其實を吐きたれども何故にや之れを他にも告ず獨り其胸に藏めて軍中に留め置き既にセルヴヰヤの兵が攻來りし時にハ此の女スリブンザに邀撃しピロットに轉戰して頗る其功を顯ハしたるにぞ凱旋の後ハ仝隊より賞牌を領受し又アレキサンドル公に面謁して武勇の二等賞牌をも貰ひ受け今日ハ矢張りウヰツヂンにありて或婦人の侍女となり常に人に對すれバ當時の事を談り出づるのみならす再びセルヴヰヤの襲ひ來るならバ今回ハ彼の弱兵に對して女粧を更むる程の事もなければ此儘從軍して散々に撃なさんずと勇氣凛々頗る矜り居ると云ふ惜ひ哉原文其名を逸したれば何氏の女なるやこれを知るに由なし

○烈婦岡谷きわ子　（前號續）

月明かならんとすればうきくものかくせるためしとかや此石うるわざを始めける頃より同し國の梅原村の民に野口長四郎といふ石工ありこれを林の家にやとひて商の事ともうちまかせけるに此者はじめハいと能くはげみて其業もはたいたれる者なりけれハ自らそれにつけて商もひろまりにけりさゝるからにハいつとなくおごれる心いできて善らぬ事ども度かさなりけりされど友紀おやこハ万に見ゆるしつゝなん過しけるに此長四郎さるわしき心の中に何よりもあるまじきハ主人の妻きわのかたちよきにぞ思ひかけたりけるこそ事のおこりなりけれさるハ此男ことし三十四になりぬきわハ三十七にてさかりハやゝ過にたれどもとよりよろしききこえの有ければ此男見

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

初しよりやる方なく念ひ焦れしなるべししば〳〵其心を通はしけれどもさるかたよいと正しき女にていかでのれしたがふべきある時はとよく云ひのがれある時はあるまじきことゝいたく恥しめなど万につけて遠ざけゝれば此忘れものいみじく憤りてはては親子妹脊のなかをさきて女に恥與えんとなん思ひかまへたりける其後いつとなくきわの爲めいとくるしくはしたなき事やう〳〵出來ぬいと堪難くさりとて人よかたるべきにしあらねば心一つにつゝみあまりては神佛に祈りけりいかで此男のうゝる心やめ給へと願ひつゝありふるに包びしき事いとゞ積もりて今は此身のやらんかたなくいかよません夫友紀に此事告たらんよはようらぬ事

三百十六

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

いで來ぬべしあり〳〵て家の爲め身の爲めいみじき恥見んよりハ死して操のほどをも世に知らそべく此しれものゝいと惡くめざましき恨をばわすがけりても思ひしらせんと思ひなりぬるこそいとあハれなれひとまをはかりてかきける文の詞のあらまし　（以下次號）

○木戸翠香院尼

前號に木戸翠香院尼の物故せられし事を記載せしが去月十六日發兌京都日出新聞に委く其傳を掲けたれば玆に抜萃す曰く前の內閣顧問贈正二位故木戸孝允氏の未亡人翠香院貞秀尼ハ京師の產れなり父ハ若狹國遠敷郡小濱の城主酒井修理太夫忠順の家臣にして木崎要と稱す母ハ志摩國鳥羽の產にして中川氏なり翠香院初めの名ハお松中比幾松といひ後又お松と改む兄清助妹をおのぶと云ひ其次男子にて政治郎と云ふ初め父要ハ天保年間京都に來住し中川氏を娶りて數子を生し建仁寺町松原邊に住み夫より大佛境內へ移り尙又百万遍田中村へ轉住して後に新竹屋町に居を定めたり玆に一條家の家臣に難波某と呼ふ人あり曾て三本樹の舞踏の師匠竹川幾松と深く夫婦の語をなせしが子の無きを憂ひ或人の紹介に依り要の次女お松が未だ十才に滿ざるを貰ひて我子とせしハ弘化二年の比なりき斯て幾松ハお松に三弦舞踏を教るに氣敏のなす處の伎藝人に勝れ長するに隨ひ妙手妙曲人を感せしむ當時世上の物情恟々として諸藩の浪徒追々京師に輻輳し三本樹の繁昌目を驚せり中にも長州藩邸ハ河原町に在て藩中尊王家の志士ハ日々三本樹の月波樓に集り遊興に托して時事を談す月波樓主ハ難波某と知己にて別て幾松とハ親くせし故養女松が伎藝を惜み敢妓に出さん事を進め我抱屋敷を貸與せり玆にお松ハ養父母の命に依り二世の幾松と稱して妓籍に入り先つ月波樓の賓客に招かる客中桂小五郎氏ありて幾松か伎藝と慷慨の義烈あるを愛せバ幾松ハ氏の風采の非凡なるを愛し相思ひ相愛して終に綢繆の情最も濃かなり是より氏が國事の爲めに奔走するを助け文久二年三條池田屋の騷動より辛ふじて氏を助け出し我家に深く匿し置き其身ハ會津其他佐幕黨の宴席に侍して其擧動を氏に通し氏の一身を保護せる事一日も其志操を失ハす文久三年八月長藩の禁闕に入るを止られてより氏ハ身を僅に處なく伏見大坂其他各所に流離顛沛し七卿の長州へ落居の後河原町三條上る對州屋敷の留守居大嶋某か氏を潛匿する事を幾松ハ窃に聞知り深くも氏の身上を案するより大嶋に依賴し不時の用に立んとて同家へ下婢となりて仕へたり果して一日大嶋

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ハ不在にて氏と幾松と物語の折柄新撰組の人々氏を捕ん爲め押掛來れバ幾松聰くも氏を落し弁舌を以て捕人に抗し終に自分ハ捕縛となり長く新撰組の獄屋に繫れ日々拷問の痛苦を嘗ても氏の行衛を明すとなし其烈義冐すへからさるを感し之を放逐す幾松獄裡を脱して氏の行衛を心に掛搜索するに氏ハ尙爲す處あらんとする故敢て京師を去ふす究中危を踏み身を種々に扮作して遂に蹶上の弓屋が邊りにて駕舁となりて世を潜むを幾松ハ之を尋出し粟田山の奥にて密談に時を移して立別れ氏ハ人夫となりて但馬出石の藩臣多田彌太郎を賴み同所に至り片問村の水嶋六兵衛が酒造人となり再び出石町の質商鍋屋喜兵衛が方に奉公人となり孝助と呼ふ此時幾松ハ宮津万年町の遊里に移りて酌人となり双方ニ勢息を通して時運の至るを待たるなり玆に天運順環して明治の新政府となり氏ハ參與の職に昇たる際幾松ハ其夫人となりお松と舊の名に復して今日に至りたり氏が内閣顧問の顯職に昇りしハ不世出の英才に出ると雖も此婦人の内を助けし功も亦預りて多からん歟云々

○首のぶの小傳

大阪島の内に信と云える藝妓あり人渾名して首信と稱す首筋誠ニあてやかにして享和二年の頃已に四十余歳になりつれども打見ハ猶二十五六才ニ見えたりこれ其渾名ある所以にして當時誰とて其美を知らざるハなかりしとぞ信父ハ御所櫻長兵衛と云ひ角力年寄なりしが安永の初故ありて信を京祇園の藝妓となせり信の藝妓となるや富豪の人これか爲めに金錢を擲つと夥しく就中三井氏の如きハ懸想して殆と十万両の金を費せしと云ふされバ其親戚管店等ハ一方ならぬ驚きをなし早速氏を伊勢松坂の店に蟄居せしめ一年中の雜費僅かに百両を限り親戚も義絶に及びたるにぞ信ハ聞て自分故にこそ去る憂目も見らるれ富る日のみ樂みを同して窮そる時別れんハ義にあらず好いづく迄も跟隨して苦樂を共にそべしとて強て請ふて松阪に至り奉仕すると十三年其間本居氏に就て源氏などの講義を聽き機織ることをも習ひ得たり其心掛のやさしき斯の如くなりしが或日管店等商議して密に信ニ告るに其實情十三年の苦勞餘の婦人の及ふ所に非す我々も感せざるにあらねどおん身のこゝに在ん限りハ親戚の憤りも解されバ却て主人に禍を增すの道理若し眞に情あらバ自ら請ふて京に歸り呉れよと懇ニ其事情を以てせしのば詮方なく飽ぬ別れに袂を絞りて京に歸り再び祇園に出て歌妓となり後俳優嵐雛助の妾となり居る中仝し俳優文七に貰ハれて其妻となり文七の死後嶋の内に出

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

てゝ全盛を極めたりしが如何せしや其終りを詳らかにする者これなしと云へり嗚呼其後日俳優の妻妾となるが如き節操はもとよりうかれ女の事なれば尤むるに足らす十三年の久しき三井氏の爲に箕箒を執り其間學問に志ざせしはまた世にめづらしき藝妓なりかし

◎群芳詞苑

○名所鹿　佐々　槻子

宮城野の盛りの萩の花つまになつさひてなく小男鹿の聲

○待花　棚倉　阿部　なほ子

春霞立そめしよりのゝなへてはなをまつ間の程そ久しき

○春溪渡航圖　九段　阪井　游月

櫻雲埋尽嶺東西。隔岸黄鸝相喚啼。舟子風流亦堪羨。一蓑花雨領春溪。

春岡迷柳曰僕愛二ス此様之詩一ヲ

○幼稚園今様　大阪　菟道　春千代

國も豊かに明らけく治まる御代の蒼生を
敎の保母が培かふて芽生を育つる幼稚園

○　麻布　西村　晴子

彌生七日親しき友にて侍りける某君の不圖黄泉の空へ旅立ち給ひぬ追慕懐舊の情に堪されば回らぬ筆の後や前嗚呼かましくもかい記して遠逝を悼む文とす

小手巻の又來る歳もくる年も變らぬものは花なるか、時しも彌生春景色雪ぞ降しく上野山、霞ぞこむる墨田川、見ましや見まし櫻花、つとひ〳〵て世の人はゑひつたはれつ浮れゆく」斯くなん君と諸共に、變らぬ花の下清水、流れ絶せぬ墨田川、木の下わくる春風は、をちこちなへて香に匂ふ、その香くはしき花の香を、諸袖こめてとゞめんと、思へる事も空頼め、あなうたてきの世の中や、はかなかるかも我友や、花に嵐のそれなふて猶咲き初ぬ若櫻、梢にかゝる朝露の、玉緒絶て消ものとは」思ひ回せはいにし日に、古里出ゝ諸共に芳しき名は櫻花、其香りにも劣らまじ、久しき事は墨田川、万代かけて遙かなる、學の道に志し、勵み勵みつ堪え堪えて、御國の爲と一すじに、たとりし甲斐もなか〳〵に、塵の浮世を厭ひてや、浮世の塵を厭ひてや、かへらぬ旅の空遠く、いにし君こそ戀しけれ

○閨秀新品十七号宿題

立春霞　備后福山　藤井惠美子　十六年三ヶ月

また殘る寒さはあれと春くれは霞たなひく遠近のやま

三百十九

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○野遊　越後新潟　吉田金子

夢に不二見たり野遊して來た夜

○同　東京　溝口榮子

野遊や馬車に居眠る御者ひとり

○同　藤井惠美子

野邊遊ひ家路のつとや朧月

○春興　湘香女史藤井

枕橋東去路三叉。遊客來尋春色嘉。行盡堤頭花滿樹。花間隱見酒帘斜。

○探梅記　東京　林　涙女

妾ノ家ハ本所區龜戸町ニ在リ臥龍園ニ隣ル每歲春風駘蕩ノ候ニ至レハ都下ノ騷客數里ヲ遠シトセス笻ヲ曳テ此園ニ來リ梅花ヲ賞スル者絡繹絶ヘス妾ノ居梅花ニ邇シト雖モ常ニ塵事ニ遮ラレ曾テ散歩ノ閑ヲ得ス何ソ其レ無風雅ナルヤ間日偶マ騷客某氏ノ誘勸ニ因リ往テ梅花ヲ探ル園ノ廣袤數百歩白雪皚々眼瞳ヲ奪ヒ淸香馥郁衣袖ヲ撲ツ老幹稚木悉ク花ヲ着ク半開アリ滿開アリ其半バ笑フ者ハ幼女ノ前途尙ホ遠ク育成ヲ待ツ者ノ如ク其全ク綻フ者ハ壯者ノ身ヲ立テ方ニ世人ノ尊嚴ヲ受ル者ニ似タリ緩歩徘徊殆ト園ヲ究ム須臾ニシテ以爲ク半開ノ梅花若シ一朝風雨ノ過ルアランニハ其輭弱ナル者ハ騷客雅人ノ賞觀ニ遇フニ及スシテ空ク汚塵ニ歸セン其强剛ナル者ハ風雨ノ侵凌ニ耐ヘ他日淸朗ノ時節ヲ待テ新蕾ヲ破リ獨リ美ヲ園裡ニ擅ニスヘシ然ラハ則チ人生ノ事豈ニ何ソ之ニ異ナランヤ强ハ弱ヲ制シ弱ハ忍テ强ニ從ハサルヲ得ス人此世ニ生レ弱敗以テ天下ニ無用トナラハ生ト雖モ猶死ノ如シ飽マテ精神ヲ鞏固ニシテ益ス努力百艱千難ニ耐ルノ策ヲ講セサル可ラス然ラスソハ半開ノ梅花ニ劣ランノミト妾此園ニ遊テ勵精ノ念起リ處世ノ益ヲ得ル太タ洪ナリ於是乎前日梅花ヲ賞スルノ無風雅ナリシヲ悔ヒ黃昏家ニ歸リ直ニ筆硯ヲ呼ンテ燈下ニ此記ヲ作リ以テ自ラ勵スト云爾

○數學荅

（五千六百十六圓）　熊本守部康子福山藤井惠美子

○新題

和歌（藤花）　俳句（早蕨）

詩（山居）五七言律隨意　文（祝學友及第文）和漢文共隨意片假名交りハ三百字を限る

數學題

今學校に五十八人の入塾生徒あり一ヶ年分の食料を畜ふ而して假かに十四人を増す時ハ幾月を支ふへきや

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎女紅

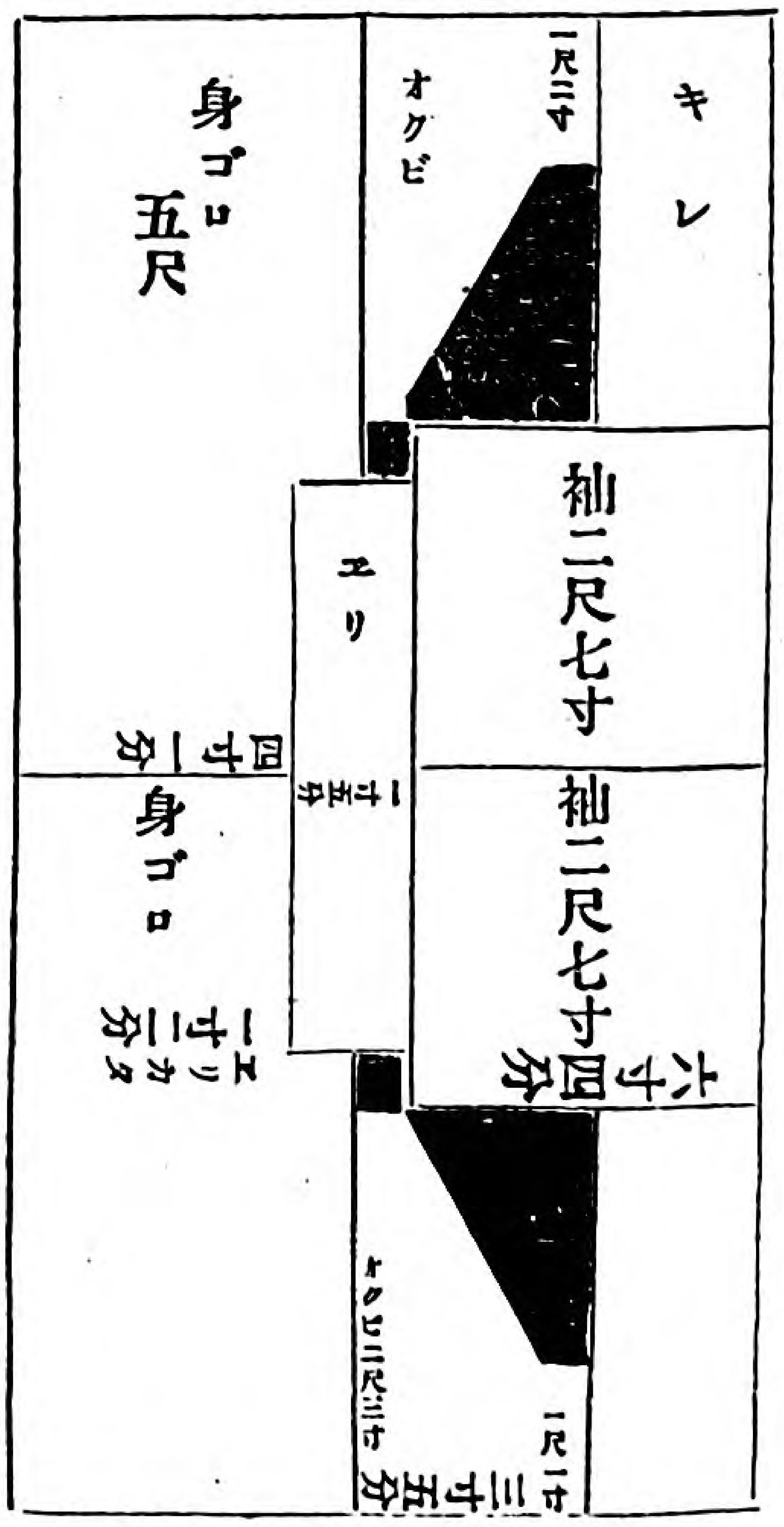
○香道　（前号續）

稽古の目録ハ常々香道習練の人に教るに先後乱れ其教に規矩なき時ハ教る者習ふ人共に迷惑するものなり故に八十八ヶ條の名目を立て其條下に於て委く教えん爲めに立置きしもの也其中初三十二條中三十二條後廿四條と三つゝわけ傳ふ今其初三十二條のみを擧て初心の人に示す

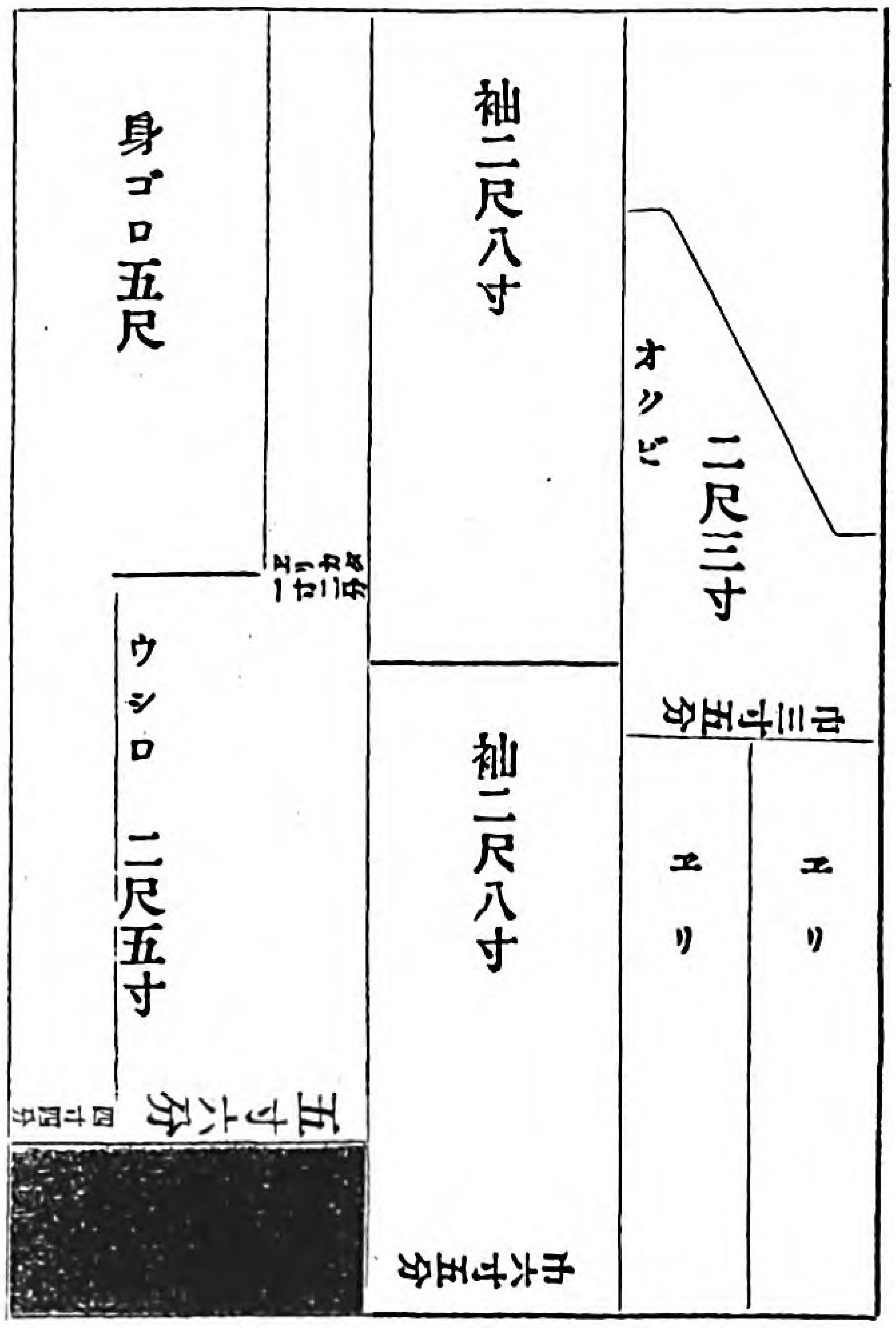
一香道具名目○敷紙の事○香席詞つゝひの事○香を割る大さ空焼組香名香の別の事○香筋新古の論○香席居すまひの事○香席扇の事○香席上座ハ上客次第の事○香元手うつりの事○置合躰用の事○香元置たる道具外よりいらふ間敷事○箱類緒の付様○道具袋緒結やう色々口傳の事○拜領の香拜領の道具わひしらいの事○道具香元へかへる作法の事○香爐うけとりわたしの式○貴人のまへにて香きゝやうの事○盆にて香をきく事○灰の押形眞草行の色々あると　（以下次出）

○裁縫　二ッ身裁方

二ッ身一尺二寸巾紋織裁方ハ長一丈巾一尺二寸にて丈二尺五寸袖一尺三寸五分圖左の如し



又全く二尺巾脊違裁方ハ長五尺六寸巾二尺にて丈二尺五寸袖一尺四寸其圖ハ



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○頭髮を生す法

頭髮の薄きかまたハなつぱし等にて禿たるにハ葡萄の蔓三握ばかりをよく搗碎きて其汁を絞りこれに蜂の密三匙を加へて禿たる處へ擦り付くべし尤も自然に年老て禿たるハ其効なし

○ワールン氏西洋料理法の翻譯(前號の續き)

肉商人より肉るゐを持ち來りしときハ乾きゐる布巾にて能く拭ひ蛆あるひは蠅の卵などに注意し速かにきり取りて之を捨て腰肉にハ骨ゐ沿ひ長き管の如きものゐるによりこれを切りとり牛肉にても仁核あるによりこれを除くべし若しそこし、長く掛けをく時ハ肉ゐ胡椒を塗りあるひハ木炭の粉を振り掛くべしこの木炭の粉を振りかくる時ハ未來の腐敗を防ぐのみならず已に腐敗を催ほしたる肉をも之を防ぐこと誠に妙なり鳥肉にても木炭の粉を振り掛けをき一時間も經たる時ハ臭氣を去ることを極めて著るし夏季は別て木炭の粉を用意せざるべからず肉類は長く掛けをく時ハ軟になりて消化し易くなるものなれども子羊および若牛の肉ハ並みの牛肉あるひハ羊肉のごとく長く掛けをくことのたしとす經濟の爲めにも肉品の最もよきがゆゑに最も高價なるものハ末に至りつまり得用となると云ふことを忘るべからず然れども小人數の家内の賄ひにはあまり大なる肉部を求むるも却て得用にあらずと云るべし兎角英國にては大買をなすの風あれども多人數の暮し向きにてハ左ることながら小人數の賄にハ甚た不經濟なること疑ひなしと信ずるなり

(以下次號)

◎稗史小説

○西江月話

偖も祭武ハ啓行の日家人祭勇を淮關に遣し一隻の大船を倩ふて諸荷物を積込ましめ遠路持去るに不便なるの家伙ハ固く封鎖して家に留め一個の家人を殘して之を看守せしめ其他の童僕ハ盡く任所に随へたり斯ゐる折にも酒ハ飲ことを休めず幾樽の酩酒を買入て船中用に供す瑞虹の心配如何ばかりぞや親戚も船迄送來りて酒の事を戒れど祭武ハ笑て荅へず彼是する中出帆の時刻來りて稍公ハ遂を拂ひ楊州一路に向ひ出帆せり看客此稍公ハ是何等の人物ぞ其名を陳小四と呼び淮安府の者にて年紀三十以上七八の水手を率ゐ其七人ハ白滿、李懸子、沈鐵甏、秦小元、何鐵二、余蛤蚆、凌歪嘴にして皆是れ兇惡の徒常に船中に於て客を刦して物を盜むをもて業とせりされば今日祭武の此船に乘込しハこれ禍に罹るの基にして陳小四ハ起

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

初荷物の多きを見て早くも慾心を起し次に家内の者の乗込む時瑞虹の美艶なるを見て愈よ其慾を増し心中に成るべく遠く往て近處家なく人の眼に觸ぬやうの處に至りて手を下さんと算計けること怖しけれさる程ヿ幾日ならす將に黄州に到んとす此處こそハ手を下すべき處あらんと水手の者と窃に蓬の上にて其事を商議なせしに水手の者ハ這人武官にして且つ從者さへ衆ければ尋常の手段にてハ適ふまじと危める樣子に陳小四ハ他こそ有名の蔡酒鬼なれバ酔ふての後手を下さバわけもなし先つ汝ハ彼の妻を斫れ汝ハ從者を殺せ汝ハ蔡酒鬼を害せよ但し小姐ハ決して戮す勿れ我れ他を留めて船中の伽にせんと云ふ折しも船ハはや黄州江口に泊せしかば蔡酒鬼ハ神ならぬ身のいかでか知らん從者を上陸せしめて些ばかりの酒肉を買求江上の詠ハまた格別なりとて酒宴をぞ始めける水手等ハ豫て牒合ハせし事なれバ直に帆を揚げ錨を拔たるに滿帆風を孕て船ハ箭の如くに駛り此夜ハ十五日なれば剛に黄昏ヿ到りて一輪の明月ハ白晝の如く黄州の人家も烟霧に鎖されて遠く一空濶の處に到る陳小四水手に命して錨を卸さしめ各兇器を携えて先づ蓬の裡に向ハんとせしに一人の從者出來るに遇ひ聲をも掛す頂門上ゟ斫下たれバ那ぞ堪ん喉と云て仰倒たり之を見る他の從者共ハ衣を抖ふて戰き怖れ敢て敵對もせす殺されたり時に蔡武ハ乘船せしより酒量も少く減し居たれど無聊なると江上の風景の絶佳なるとに覺えす妻と獻酬に度を過し瑞虹の諫も耳にかけそ已に九分の酔に到りし頃前艙ヿ人の叫ぶ聲の聞えしかば瑞虹ハ何事ならんと了鬟をして見せしめしに了鬟ハ嚇得して腰打拔し寸歩も移そと難く齒根も合す戰ながら人殺よと叫ければ蔡夫人ハ酔も覺め果て魂も體に附かす起上て逃んとする時早くも兇徒進み來りしかば蔡武ハ朦朧たる酔眼を睜開きつゝ大喝して我れ茲ヿ在汝何ぞ敢せんと云けれどもいかで此酔人を恐んや沈鐵兇斧を揮つて蔡武を一擊の下に倒さんとするにぞ男女の者皆な跪きて生命ばかりを助け呉よ金銀ハ望みに任せて取せんと請ど願ど肯入ず纔に陳小四ハ仝鄕の好情を以て馘るとのみハ饒すべし者共索子を持來れと云つて蔡武夫妻二子諸共堅く綁わげ瑞虹のみを止て江中に投せんとそ此時蔡武ハ泣て瑞虹に向ひ是迄你の言を消そ今日あるを致したり實に面目もなき仕合と言未だ畢らさるうち曳やとばかり投込れ生死も知すなりにけり詩あり証となす

金〇將軍酒量高　綠林梟客氣雄豪
無情波浪兼天湧　疑是〇江起怒濤

（以下次號）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎御伽草

○借銀を返へしたる夢

或る處に借銀して首も廻さる一人あり討債者來りて毎に催促す一日例に依てまゝ來る負債者謂て曰く小哥ハモウ遠のらす死ぬであらふ昨夜死んだ夢を見やしたから討債者曰く夢ハ逆夢とやら死ぬとを見たらば反つて達者であらふ負債者曰ふへゝ左樣でこせへヤスかそれならば後で見やした夢ハまことに嬉ひ夢でありますす討債者何夢と問ふ負債者曰くあなたの債を還しきらずに嚴しき催促を受ける夢でありやした

評今日雖借人金錢爲不返之工夫者多可戒也

○留飯の意なし

吝嗇先生の家に一客あり坐談正午に至るも留めて飯を饗ふの意なし適ま號砲の響を聞く客先生に謂て曰くモウ號砲が鳴ましゝと先生ハ何くわぬ顔してイヤ那の號砲ハ些とくるつて居りまゝ客ハ其吝に驚き故意私の腹の減樣で知れますと云へば先生ハ然らハ君の腹もくるつて居ます哩

評世吝嗇家讀之應起何等感覺哉

○字謎

二女あり戸の側ハらにありて談話す偶ま一女ハ故ありて去ると云ふ蓋しこれ婦女の最も戒むべき一個の文字を作り來る知らす何文字なるや

○考へ物

爰に三字名の一果物あり讀下せば自分の體が此方へ來るとにあり逆に讀めハ洋語にて動物より搾り取る滋養物の名となる

○十八號字謎幷に謎の解當者左の如し字謎(第一盗)千葉師範學校内久保雄千代姐赤阪松本生銀坐吉川今姐栃木縣塙竹姐湯島奥田生(第二茶實)茅場町佐田德姐番町鵜田淸姐千葉師範校内長谷川茂世姐赤阪松本生横須賀鈴木藤姐(謎のぼりにとまる)栃木縣塙竹姐銀坐吉川今姐湯嶋奥田生番町鶴田淸姐鈴木藤姐(十七號西洋謎號砲)考へ物タマゴ熊本守部康姐

◎机の塵

○金言摘錄

功崇惟志業廣惟勤　尙書

末大必折尾大不掉　春秋左氏傳

有機事者必有機心　莊子

小利大利之殘小忠大忠之賊　呂氏春秋

懸衡而知平設規而知圓　韓非子

同類相從同聲相應　莊子

言美則響美言惡則響惡身長則影長身短則影短　列子

○十字

小笠原流などに十字といふハ饅頭のことなり惣体十字と云ふハ蒸餅のことにて崇求に十字なふず八食へそと云々能くむして十文字に破るゝゟゑなり御室守覺法親王の日記に至つて親切の興よハ先づ十字を出たせとあり蒸物の糕子の事なり

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

◎和書講義

つれ〴〵草

椎本主人述

〔講解〕後徳大寺實定公、鳶のあつまるを厭はせ給ひ、寝殿の屋の棟に、繩を引張られたるを、西行法師か見て、公の小量なるを察し、其後ハ再たひ伺候せざりし由、聞居たるがとの意也、さて、西行ハ、俗名兵衛尉憲清、法名圓位、後に西行と改む、鳥羽院の北面にて、名譽の武士也、

綾小路宮のおはします、小坂殿の棟に、いつぞや繩をひかれたりしかは、かのためし思ひ出られ侍しに、まことや、烏の群れ居て、池のかへるをとりければ、御覧じかなしませ給ひてなんと、人の語りしこそ、さては、いみじくこそとおはえしか、徳大寺にも、いかなるゆゑか侍りけん、

〔全旨〕是ハ、又家居にて偏にハ、事ざまの推量しがたき、證を擧て、さきの、大方ハといへる、詞の心を説きたる也、

〔語釋〕かのためし　西行が見限し例し〇かへる　蛙也、さての蛙を、かはづといひて、歌などにも、田沼によみあはせれど、古へハ、河にのみよめり、萬葉集八に、河津鳴甘南河、卷九に、河蝦鳴六田河、卷十に、河津鳴有三輪河、等の如し、依りて、荒木田久老ハ、河蝦ハ、今の田面に鳴く、蛙にハあらす、河鹿といふ魚也といへり、本間游清ハ、山川なると、田沼なると、異類にハあらず、山河なるハ、するどき水に育てハ、形やせ、其聲も清らなり、田沼なるハ、ぬる水にそだてハ、形もふとり、聲もだみたりといへり、猶よく尋ぬへし、〇いみしくこそ云々　甚たしき慈悲の御心にてありきの意なり、さて、このいみしといふ語ハ、甚しき大事ある時、忌み愼むより出たる語なるが、轉してハ、善し惡しとも、甚しき所につかへり、

〔講解〕綾小路宮の坐します、小坂殿の屋の棟に、繩を張れし時、昔西行か、後徳大寺實定公を見限りし、例しを思出して、兼好も、宮を侮りまゐらせしか、跡にて聞けハ、烏の群のり居て、池の蛙を取るを御覧して、かくハせさせしなりと、さてハ、甚しき慈悲の御心なりけりと、深く感心したりき、是を思へハ、徳大寺殿にも、何の故ありしならんとの意なり、此十段ハ、家作る人になりてハ、外より見られて、惡く思はれぬやうにせよ、又外より見る人も、其家居に、少し見苦しき事ありとも、問ひ正さぬ内ハ、偏に亭主を、見限る事なかれと、警戒したる也、綾小路ハ、龜山院第十三皇子、性恵法親王なり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

驛遞局認可

廣告

○化學理論一班
農學士菊地熊太郎編述
全一冊 定價金二十錢 郵便稅金六錢

○日本温古類聚
嶋津倉治編輯 明治新刻
全壹冊 定價金三十錢 郵便稅金六錢

○小學遊戲書
新撰 小池民次序 馬場壽著
全一冊 洋本仕立小本 挿密圖 定價金拾五錢 郵稅金四錢

○東京高名鑑
此書ハ府會議員、區會議員、新聞記者、演說者、詩文書畫の先生、代言人、等を掲載したる重寶の本なり
一右書籍の外逐次出板書籍廣告仕候間續々御注文を乞ふ
正價二十五錢 郵稅共

○小學徒手體操新書
增補訂正 千葉師範學校體操教師馬場壽先生著
美本全一冊 第二版 定價八錢 郵稅二錢

○歐米女權
中村敬宇先生序 湯目北水先生編纂
全壹冊 定價三十錢 郵便稅四錢

○婦女庭訓の眞鏡
東條竹翠著 繪入かなつき
全壹冊 定價三十錢 郵便稅四錢

○女子作文楷梯
七條峯太郎編輯 女子必携 鼇頭作文要用字類
和製中本全壹冊 定價金貳拾貳錢 郵便稅四錢

○啞鈴體操新法
馬場壽先生著
美本全一冊 定價金十錢 郵稅金二錢

明治流行うそ八百
滑稽新話
壹冊正價二十錢 郵稅四錢

○忠經旁釋
漢馬融撰 日本佐藤楨先生旁釋
木板手刷 正價拾錢 郵稅四錢

○明治英名傳
正價金三十錢 郵稅共

○人間長壽法
人命保險
正價郵稅共三十錢

○清國漫遊誌
正價金四十五錢 郵稅自便

美容術
小學生徒
全一冊 定價金八錢 郵稅金二錢

發行所 東京々橋區南鍋町貳丁目拾壹番地 績文舍
持主兼編輯人 松本義弘
印刷人 初鹿野鎌五郎

女學叢誌賣捌所

東京芝區愛宕町一丁目三番地 大賣捌所 修正堂
同 神田區淡路町 同 巖々堂
同 神田區雉子町 團々社
同 日本橋區新葭町 長明堂
同 牛込肴町十七番地 活神堂
同 芝區愛宕下町二丁目 高槻堂
同 蠣殻町貳丁目 信文堂
同 本郷區本郷元富士町二番地 盛春堂
同 同 本郷春木町貳丁目 解明堂
同 神田區佐柄町廿一番地 東海堂
同 牛込區牛込神樂町 積善舍
大坂府 備後町四丁目 岡嶋支店
千葉縣 千葉本町一丁目 立眞舍
藝州 廣嶋大手町一丁目 早速社
江州 彥根西內大工町 新々堂
陸前國 仙台大町四丁目 木村文助
越後國 長岡裏壹之町 大橋書房

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY